

家庭科学習指導案

日 時 平成 27 年 11 月 6 日(金) 5 校時
 学 級 2 年 A 組 男子 13 名 女子 16 名 計 29 名
 指導者 巖本 佐多子

1 題材名 D身近な消費生活と環境「商品の選択と購入」

2 題材について

(1) 教材について

通信技術が発達し、テレビ・携帯電話・インターネットなどの情報が、消費生活へ大きく影響を及ぼしている近年、販売方法や支払い方法にも変化が表れている。商品やその購入手段に関する膨大な情報が消費者の購買意欲をかき立てている。その結果、支払い能力を越えた契約により自己破産に陥ることも報告されている。消費者・市民として、正しい知識を身につけ、正しい消費行動をとることができるよう指導しなければならない。具体的には、様々な販売方法、支払い方法の特徴を理解し、売買における契約の意味を正しく把握する必要があることや支払い困難にならないよう、自分に合った購入方法や支払い方法を選択できるようにすること等である。

本教材は、「商品の選択と購入」という題材の中で、自分の消費生活を見直し、自分に合った購入方法や支払い方法を選択できることが健全な消費生活につながることを理解させたいと考える。

また、小学校の「D(1)物や金銭の使い方と買い物」と系統づけ、消費者としての自覚を持ち、身近な消費生活の視点から生活を主体的に営む力を育みたい。

(2) 生徒について

2 学年生徒に対し、商品の購入に関するアンケートを行った。(56人中49人から回答を得た。)

◆商品選択の仕方

自分で使う物を自分で選択する	30人(約61%)
自分で選んだり家族に選んだりしてもらう	3人(約6%)
家族にすべて選んでもらう	9人(約17%)

◆商品購入後の様子

自分で選択・購入した商品についての失敗をしたと思ったことがある	17人(約35%)
自分で選択・購入した商品を納得して使用している。	35人(約71%)

商品購入の代金は家族(保護者)が負うことがほとんどである。また、自分の裁量で使える金銭は、正月やお盆でいただいた小遣いがほとんどであり、それを貯金したり、家族に預けたりして確保していると答える生徒が多い。その小遣いを部活動の用具やゲームソフトなど比較的高額なものの購入に充てたり、日常必要となる文房具等を購入に充てたりしており、計画的な使い方は行われていない状況にある。

なお、無店舗販売である通信販売やインターネット販売の利用は少ないという回答を得ている。

上記のアンケート結果から、自分の好みを優先に商品選択をしているが、支払いについては家族に頼る傾向があり、購入に対する責任はあまり感じていないことがわかった。そこで、商品購入の際に必要なとされる知識や技能はもとより金銭の使い方に関してもより計画的で適切な方法を学習し、よりよい商品購入について考えさせることが必要であると考え。

また、自分の目や足で商品を確認して購入する店舗販売が身近な販売方法であり、無店舗販売に

対しては経験や知識が乏しい。その対応としてロールプレイング等での体験的な学習を進める必要があると思われる。

(3) 指導について

授業では、自分の経験をもとにグループで話し合い、具体的な写真・図・DVDなどを用いてイメージしやすくし、消費生活に必要な基礎的・基本的な知識を学習し、これからの「契約」「取引」の場面で、「その商品が自分にとって本当に必要な物か」、「購入するかどうか」「どの販売店で購入し」「どのような支払い方法を選択するか」について学んだ知識を活用して主体的に判断し意志決定できるようにしたい。

3 題材の指導目標

- (1) 自分や家族の消費生活に関心を持たせ、消費者の基本的な権利と責任について理解できるようにする。
- (2) 販売方法の特徴について知り、生活に必要な物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができる。

4 題材の指導計画及び評価規準

時	学習内容	評価の観点				評価の方法
		関心・意欲・態度	工夫・創造	技能	知識・理解	
1	・生活に必要な物の流れ ・商品購入のプロセス	○				ワークシート テスト
2	・生活情報の活用 ・商品の価格				○	ワークシート テスト、観察
3	・販売方法と支払い方法 ・「契約」の意味とルール				○	ワークシート 観察
4 本時	・販売方法と支払い方法 「適切な商品の選択」		○		○	ワークシート 観察
5	・消費生活のトラブルを防ごう		○		○	ワークシート
6	・消費者の権利と責任 ・消費者を支えるしくみ	○		○		ワークシート はがき

5 本時の指導

(1) 本時の目標

身近な商品について、自分にとって適切な選択と支払い方法の選択ができる。

(創意・工夫) (知識)

(2) 研究とのかかわり

① 教材との対話

前時の「商品の販売方法の特徴 (いろいろな店の長所・短所) と、契約 (購入の意志と

家庭科3

支払い方法)の学習から、本時は「消費(商品の購入)、契約(支払い)の最適の方法を選択する」ために、「自己の生活実態の分析、適切な商品の選択(大きさ・材質・値段)、支払い方法などを検討する」こととし、既習事項や経験による知識を使って個々の消費生活の改善に生かせるようにしたい。

② 他者との対話

- ア、 グループ内の話し合いでは、互いの考えを交流し、相違がわかり、班の意見をまとめ、商店・商品の選択から購入の決定ができるようにさせたい。また、他の班からの意見をもらうことで、いろいろな考え方を知り、よりよい商品を購入しようとする態度も身につけさせたい。
- イ、 小黒板に記入し掲示することで、班の考えの変容や、他の班の考えの多様さがよくわかるようにしたい。

③ 自己との対話

- 各自が事前にプリントに記入しておくことで、一人ひとりが自分の考えを持って、授業・グループ内の話し合いに参加・発言できるようにさせたい。
- 最後に、自他の班の意見を参考により良い選択ができるようにさせたい。

(3) 本時の展開 (4時間目)

段階	学習活動	教師の支援と留意点	形態	評価の観点【】と方法()、資料○
導入 (5)	1 これまでの商品の購入の失敗について考える	【教材との対話】 ・自分の生活経験や友達の失敗から学び、商品を選択しようとしているか。	一斉	○宿題プリント
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">自分が納得できる商品を選ぼう。</div>			
展 開 (40)	2 班協議	【他者との対話】 ・自分の選択した商品とその選択理由、ならびに支払いの方法を発表し、班内でより良い商品を選択する。	グループ	○班別カード
	3 他の班が選択した商品を知る。	・他の班が選択した商品と支払いの方法を知る。	一斉	【知識】 既習事項に基づいて、より良い「商品」や「支払いの方法」を選択できる。(ワークシートへの記入)(観察)
	4 自己選択の再検討。	【自己との対話】 ・自他の班の選択を参考に、自分が納得できるより良い商品を選択し、その自己決定の理由を考える。	個人	
5 振り返りを記入する。	・本時の課題をもう一度確認し、今日の学習を通して考えたこと、理解が深まったことをワークシートに記入させる。	個人		
終末 (5)	6 記述したことを発表し交流を図る。 7 次時の予告	・それぞれまとめたことを発表させる。	一斉	